

プラズマ・核融合学会誌

第84巻第11号

2008年11月

| | | |
|--------------------------|--|-----|
| 解 説 | フェムト秒レーザーを用いたテラヘルツ波の発生と応用 萩行正憲, 谷 正彦, 北原英明, 長島 健 | 731 |
| 解 説 | 核融合プラズマとプラズマプロセッシングの橋渡し 大野哲靖, 高村秀一 | 740 |
| 小 特 集 | ITER 時代における大学の革新的閉じ込め概念研究のあり方 | |
| | 1. はじめに | |
| | 1.1 小特集のねらい 政宗貞男, 永田正義, 高橋 努, 小口治久 | 750 |
| | 1.2 核融合と高ベータ自己組織化プラズマ研究 高村秀一 | 752 |
| | 2. 高ベータ自己組織化プラズマ研究の最近の展開 | |
| | 2.1 磁場反転配位プラズマ研究の閉じ込め性能改善と新展開 高橋 努 | 754 |
| | 2.2 スフェロマックの閉じ込め改善と新展開 永田正義 | 760 |
| | 2.3 逆磁場ピンチの性能向上 政宗貞男 | 766 |
| | 3. アメリカにおける革新的閉じ込め概念(ICC)研究 | |
| | 3.1 アメリカにおける Innovative Confinement Concept (ICC)の動向 ... WOODRUFF Simon | 771 |
| | 3.2 The Plasma Science and Innovation Center の活動について NELSON Brian A. and JARBOE Thomas R. | 775 |
| | 4. 核融合開発プロジェクトと高ベータ自己組織化プラズマ | |
| | 4.1 欧州におけるトカマク研究に対する RFP 装置の役割 | |
| | 4.1.1 トカマク装置での共同研究における RFX の役割 MARTIN Piero | 781 |
| | 4.1.2 トカマク装置での共同研究における EXTRAP T2R の役割 ... BRUNSELL Per R. | 787 |
| | 4.2 燃料粒子補給の観点からの自己組織化プラズマ研究の ITER への貢献 ... RAMAN Roger | 790 |
| | 4.3 革新的炉概念からみた核融合開発プロジェクトへの貢献 | |
| | 4.3.1 スフェロマック核融合炉の概念 HOOPER Bickford E. | 796 |
| | 4.3.2 RFP 核融合炉における電流維持のシナリオ SARFF John S. | 800 |
| | 5. プラズマ科学における高ベータ自己組織化プラズマ | |
| | 5.1 Center for Magnetic Self-Organization in Laboratory and Astrophysical Plasmas(CMSO)の活動における MST の役割 FIKSEL Gennady | 804 |
| | 5.2 プラズマ基礎科学への展開 | |
| | 5.2.1 宇宙プラズマ現象の実験室実験 BELLAN Paul M. | 808 |
| | 5.2.2 ダイナモトリコネクションの研究 BROWN Michael | 812 |
| | 6. まとめ | |
| | 6.1 学術研究としての高ベータ自己組織化プラズマ研究のあり方 桂井 誠 | 815 |
| | 6.2 今後の研究の進め方 政宗貞男, 永田正義, 高橋 努, 小口治久 | 818 |
| 講 座 | 衝撃波による粒子加速 | |
| | 5. 重イオン加速 大澤幸治 | 822 |
| | 6. 陽電子加速：磁力線に平行な加速 大澤幸治 | 828 |
| 研 究 論 文 | バーチャルリアリティを用いた対話的 3次元可視化ソフトウェアの開発とその応用 陰山 聡, 大野暢亮 | 834 |
| インフォメーション | | 844 |
| | ITER だより(12) | |
| | 【会議報告】「プラズマ乱流に対する運動論的方程式, 数値的アプローチおよび流体モデル」に関するワー クショップ報告 | |
| | 【人事公募】 | |
| Plasma & Fusion Calendar | | 847 |
| 本 会 記 事 | | 849 |
| | 高校生シンポジウム報告/専門委員会応募に対する採択の結果 | |

表紙の絵

核融合科学研究所の CAVE 型バーチャルリアリティ装置「CompleXscope」による磁気リコネクションの粒子シミュレーションデータの可視化。上流境界から入射したイオンが磁気中性面近傍でメアンダリング運動を起こしながら(白線), 下流境界から排出されている。メアンダリング運動の平均的な振幅の大きさがイオンの高温領域 (xy 面のカラーマップ) の幅と対応していることがわかる。(Hiroaki OHTANI *et al.*, Plasma and Fusion Research Vol.3, 054 (2008) <http://www.jspf.or.jp/PFR/>)

【複写をされる方に】本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写してください。ただし、日本複写権センター(同協会より権利を再委託)と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による内利用目的の複写はその必要はありません。(社外頒布用の複写は許諾が必要です) 権利委託先: 学術著作権協会 Tel: 03-3475-5618 E-mail: info@jaacc.jp
なお、著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、直接発行団体へご連絡ください。
また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. (CCC) (222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA Tel 1-978-750-8400; Fax 1-978-646-8600)